特集3

阿賀野川えとこだプロジェクト

パネル巡回展・10年の軌跡

～阿賀野川流域・近代日本の光と影を描いた これまでの11作品を振り返ります～

H21 草倉銅山の光と影
～鉱山に魅せられた人々～

H22 鹿瀬・昭和電工・阿賀野川
～光と影を織りなしてきた歴史～

H23 阿賀野川と共に生きたあの頃
～風土と歴史が織りなす光と影～

H24 阿賀野川と大地が織りなす光と影【前編】
～大河と共に生きてきた松浜・横越～

H25 阿賀野川と大地が織りなす光と影【後編】
～大河と共に生きてきた半農半漁の地域～

H26 阿賀野川と鉧山、ダム、そして高度成長の果てに
～大河と近代産業が織りなした光と影～

「文章が主、写真が従」の時代のパネル作品

平成20年代の前半から半ばにかけて…

上流から下流へと、大河をくだったパネル展

平成21年度にスタートしたFM事業（※1）のパネル展。最初の2年間は「草倉銅山」と「昭和電工㈱鹿瀬工場」を題材に、上流域の阿賀町鹿瀬を舞台に開催しました。

その後は、中流域の「安田・五泉地域の地場産業」、下流域の「交通の要衝としての松浜・横越」「半農半漁の地域だった岡方・一日市」と、大河を上流から下流へとくだるように、題材と舞台を変えていきました。

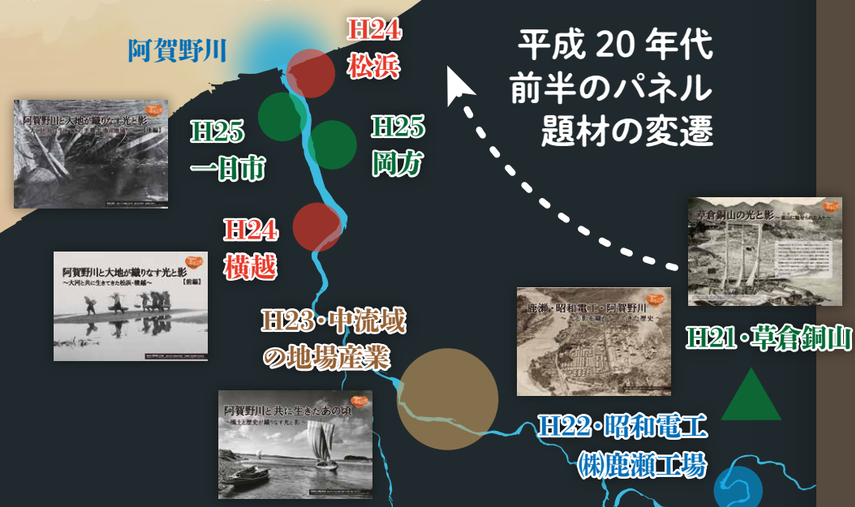
流域を一通り巡り終わった26年度には、新潟水俣病問題を初めて正面から捉えた作品を制作して、巡回展を開催しました。なお、この頃までのパネル作品は、「文章が主・写真が従」の構成で制作されています。

※1：「阿賀野川え～とこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。

草倉銅山の選鉱風景 長谷川国一氏所蔵

鹿瀬工場の空撮写真 出典：鹿瀬工場タイムス

FM事業の初期のパネル展も、その当時すでに、上記のような草倉銅山や昭和電工㈱鹿瀬工場を撮影した昔の貴重な写真を数多く入手していたことから、開催可能となりました。



平成20年代の後半から令和にかけて…

写真を主としたパネル展示へ

この頃になると、FM事業の「ロバダン！（炉端談義）」や「資料整備事業」を通じて、昔の写真が大量に収集されていました。

そこで、これらの貴重で印象的な写真を活かして、「写真が主で、文章が従」のパネル作品を展示し始めたところ、好評だったことから、これ以降は写真を主体としたパネル作品が主流となりました。

流域全体から近代日本へと題材の視野を広げて

平成27～29年度には、橋や船、鉄道や鉱山、川業や近代産業など、阿賀野川流域を様々な観点から重層的に描き出したパネル作品が好評を博しました。また、公害関連の写真を用いて、新潟水俣病の歴史そのものを描き出すことにも取り組みました。

一方、平成から令和にかけては、流域を飛び出して、近代日本の光と影をテーマとしています。具体的には、明治から昭和にかけて相次いだ「鉱害や四大公害」と、「近代産業の変遷や時代環境の変化」との間の関係性を、新しい観点から読み解くパネル展を開催しました。

明治・大正・昭和の日本、近代産業をめぐる光と影
～財閥と鉱山、化学産業の台頭、そして石油の時代へ～

昭和30～40年代の日本、高度経済成長の光と影
～躍進する日本経済の陰で、四大公害が投げかけた問い～

阿賀野川の川業が盛んだったあの頃
～川業の隆盛と衰退、新潟水俣病の影、阿賀野川の現在～

阿賀野川上流域を巡る近代産業の変遷
明治・大正・昭和～近代産業がたどった光と影の縮図

阿賀野川・光と影の近代ものがたり
～イザベラ・バードから近代産業まで～

「写真が主、文章が従」の時代のパネル作品

鉄製コーレンボウ 小浮新田集落住民所有

阿賀野川でかつて栄えた川業関連の貴重な写真も数多く収集して、パネル作品の中に組み込みました。

持倉銅山の製錬所 小田辰兵衛氏提供

明治末期から大正初期にかけて、五泉市の実業家・小出淳太氏が開発した銅山。製錬所と事務所の遺構は現在も山中に残り、テレビでもよく取り上げられる人気のスポットです。パネル作品でも流域の鉱山を題材とする際に、多くの写真を収集して紹介しました。

イザベラ・バードと本尊岩 本尊岩の写真は田辺修一郎氏所蔵

明治期に阿賀町から阿賀野川をくだって、新潟市に滞在したイギリスの旅行家・イザベラ・バード。ちょうど本尊岩を帆掛け船で通りかかった際に、「阿賀野川はライン川より美しい」との名言を残しました。彼女の行程もパネル作品の中に組み込むことで、大変な人気を博しました。

イタイイタイ病の被害発生

新潟水俣病だけでなく、日本の近代産業の変遷とその光と影にも焦点を当て、イタイイタイ病や熊本水俣病、四日市ぜんそくに関連する写真資料を収集して、パネル作品として制作しました。

四日市コンビナート

令和2年度のパネル展は…？

近日公開予定

今年度は、P2で紹介した教材をもとにパネル作品を制作し、ネットの中でヴァーチャル展示会を開催予定です。